

〔第42回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

認知症における治療法開発の戦略 - 病理解剖から創薬研究まで -

バイオリソース研究室
矢澤 生 室長

2019年7月9日(火) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

近年、認知症の治療戦略が大きな問題になっています。認知症の中で神経変性疾患に対する治療法の開発が難しい現状において、認知機能低下の予防にだけ焦点を置くことを柱とする治療戦略には問題は多いという意見があります。実際に認知症の診療現場の神経内科専門医や患者家族の立場では、認知機能の低下による諸症状も重要ですが、大事なことは長期臥床状態に至り食事が取れなくなることであり、そして神経変性に対する根本的な治療法が確立していないことです。この状況ではがん治療における「早期診断と早期治療」は、認知症では同じ意味を持たないことは明らかです。何としても神経変性に対する根本的な治療法の開発が必要です。神経内科専門医として認知症治療法の開発において重要なことは、認知症の診療現場自体にあり、詳細な臨床症状の解析と対比する病理解剖による神経病理所見にあると考えています。本セミナーでは、認知症の治療戦略を考える上で原点に立ち返り、臨床症状から病理解剖までを概説します。そして、これらの事実から認知症における神経変性の治療標的について一緒に考えてみたいと思います。

座長：細山 徹
連絡先：副所長室(内線5002)